山

【ヤマ】
/The Mountain/

八ヶ岳の思い出

プロスキーヤー・登山家
三浦 豪太

八ヶ岳は現代に生きる僕達に本当の豊かさがなんたるかを教えてくれる。

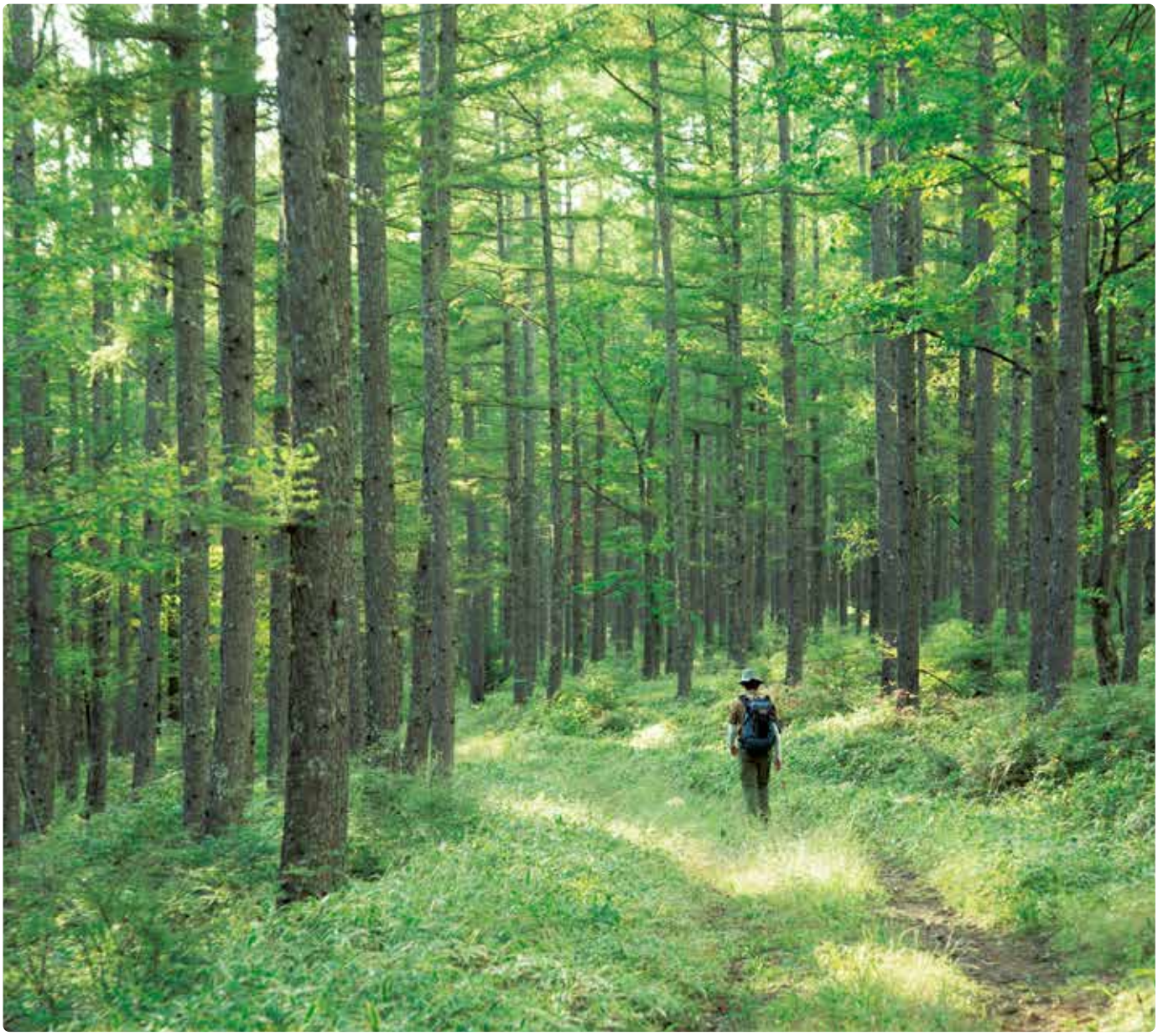
中央道を諏訪南インターで下りて、八ヶ岳に向う県道に入る。正面に八ヶ岳を見ながら車を止め、外に出て大きく深呼吸。背伸びをするように八ヶ岳の新鮮な空気をお腹いっぱい吸い込む。車で座っていた時感じていた背中とお尻のしびれるような鈍い感覚、そこに血が巡りスッと体と気持ちが軽くなる。その一息は格別な一息である。八ヶ岳に初めて来たのは僕が小学校の時だ。11歳の頃、キリマンジャロに家族で登りにいった。この模様をテレビ番組として取り上げられたのだが、その音楽を作曲してくれた先生が八ヶ岳におり、兄と僕とで遊びにきた。以来かれこれ30年以上八ヶ岳を訪れている。

僕が八ヶ岳に行くと必ず最初に訪れる所がある。原村でペンションを営んでいる、オーナーのYさんの所である。Yさんを僕は「メージン」と呼んでいる。何のメージンかというと自然を相手にした遊びなら大概何でも知っていからだ。どこの川のどこに何の魚がいて、どうしたら子供の手でも魚をとる事が出来るのか、今の時期のどのあたりならどの標高でキノコや山菜がとれながらも地元に配慮した場所なのか、カブトムシを取りにいくのならピンポイントで何時にいけばとれる可能性が高いのか、路肩に止めた車の止め方一つでそれが茸採りなのかハイカーなのか見抜く方法や、地蜂が好む餌をおいて、その地蜂に目印をつけて巣穴を探し一網打尽にした巣の中にある蜂の子を食べる最も美味しい料理法。メージンと一緒に遊ぶと尽きる事が無く、目をキラキラさせながら次々の新しい遊びを提案してくれる。八ヶ岳の魅力と「メージン」に惹き付けられ、世界的に著名人達もいまや八ヶ岳近隣に居住してきた。世界的なパラグライダー選手、世界的な数学者、一流バイオリン制作者、大学からも意見を求められる昆虫コレクター等。彼らはしょっちゅうメージンのペンションに出入りしていて話しを持ち寄り夜な夜な盛り上がっている。

そんなメージンからある日、知り合いの農家の畑で矢尻がとれるから行ってみようと誘われた。土を掻くとそれほど探さなくても黒曜石の矢尻がすぐに出て来た。メージン曰く「この地方では縄文時代、日本の人口の20%が住んでいたといわれている」と話してくれた。縄文時代において重要なのはきれいな水と農作物が育つ肥沃な土、そして安定した気候である。そんな恵まれた土地に棲む多くの野生動物に当時の縄文人達がその矢尻を使って狩りをして様子に思いを馳せた。八ヶ岳は現代に生きる僕達に本当の豊かさがなんたるかを教えてくれる。

みうら ごうた
神奈川県鎌倉生まれ。アフリカ、キリマンジャロを最年少（11歳）登頂。94年（リレハンメル）、98年（長野）オリンピックに、スキー・モーグル競技で出場。2003年、父三浦雄一郎とともに世界最高峰エベレスト山（8848m）、初の日本人親子同時登頂記録を達成した。

八ヶ岳で３番目の高さを持つ、阿弥陀岳（2,805m）
山頂付近の岩場。八ヶ岳西麓に位置する原村には、
毎年全国から多くの登山客が訪れる。



阿弥陀岳の山名は山岳宗教に由来しており、山頂には阿弥陀如来の石像をはじめ多数の講中碑が奉じられている。展望は赤岳や横岳の西壁がよく観察できる。御小屋尾根の下部にある御小屋山は、諏訪大社の御柱として伐り出すモミの社有林があるため、別名を御柱山（おんばしらやま）という。

八ヶ岳ではさまざまな野性の生き物と出会うことが出来る。**1** 深山の森に棲むヤマネ（9月下旬） **2** 山道を横切るカモシカ（4月初旬） **3** 岩間に咲くハクサンイチゲ **4** 食用キノコの中でも人気の高いハナイグチ（ジコボウ） **5** ミヤマシロチョウ（7月） **6** ツガザクラ（7月） **7** イブキジャコソウに集まるウラギンヒョウモン（7月） **8** 日本の野生蘭のなかで最も美しいとされるホテイラン（5−6月）